

議事要旨入り

# 富岡地区円卓会議

自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

---

第1回 令和5年8月26日

はじめにお読みください

本資料は、当日配布資料をもとに、議事要旨を加筆したものです。

なお、当日配布以降に加筆したページは、ページの枠上部を橙色にしてあります。

---

【凡例】

※当日配布のままのページ



※加筆ページ



## ▶「富岡地区円卓会議」のメンバー(委員)

① これまで行政がよく使っていたメンバー選出手法		② 最近使われつつある手法
<p><b>公募</b></p> <p>広報紙等で広く募集し、希望者からの応募によって決める方法。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「意識の高い人」の声を聞くことができる。</li> <li>● 利害関係者が手を挙げたり、参加者が特定の人に<b>固定化</b>しがち。</li> </ul>	<p><b>推薦(一本釣り)</b></p> <p>団体からの推薦や首長の一本釣りで決める方法。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>専門性の高い人や地域の有識者・有力者</b>を選ぶことができる。</li> <li>● 毎回団体の長や役員が選出されることによる<b>形骸化</b>や参加者の<b>固定化</b>などの課題あり。</li> </ul>	<p><b>無作為抽出</b></p> <p>無作為で抽出した住民に案内を送付し、希望者からの応募によって決める方法。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>広範囲・多様な参加者</b>を望める。(地域や行政と接点の少なかった人、公募への応募を躊躇していた人など)</li> <li>● 広範囲に直接連絡するため、募集と同時に広報能力を持つ。</li> </ul>

- 推薦と無作為抽出を組み合わせることで、それぞれのメリットを活かす。
- これまで関わりの無かった「有識者」と「多様なメンバー」の間に新たな関わりが生まれる。

## ▶「富岡地区円卓会議」の目的

自由な議論から地域社会の未来を考える会議です。  
 様々な年齢、性別、立場の人々が集まってテーマについての現状を知り、地域のありたい姿と現状の間にあるギャップを捉え、それをどうすれば埋めることができるのかを「他人ごと」ではなく「自分ごと」で考えて話し合うことで、テーマに関する地域課題の解決方法を提案することを目的とします。

### 暮らす人々の生の声から地域の課題を見つける

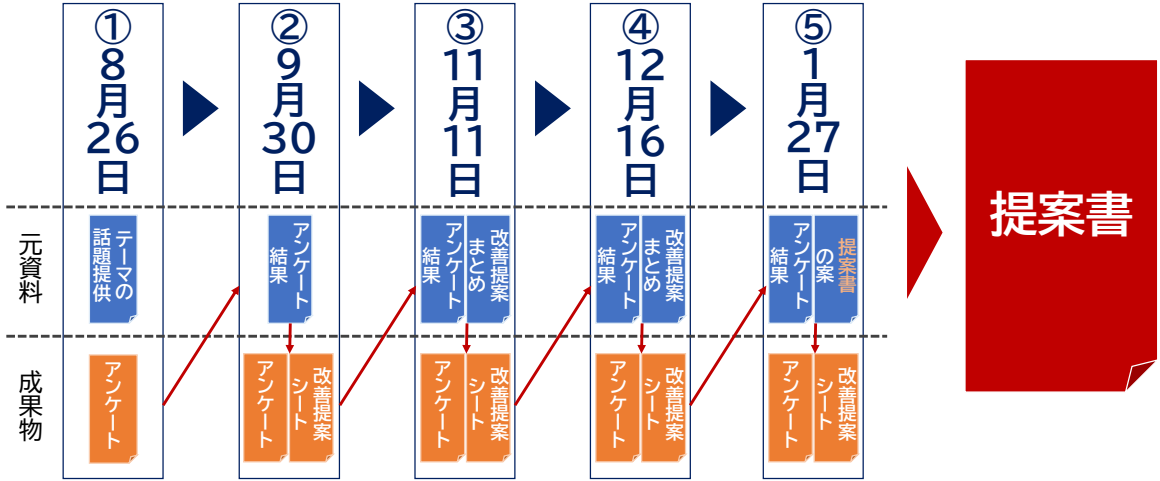
富岡に暮らす人々が集まり、自身の生活実感を伴った意見を交換することで、困りごとの本質を見つける。

### 課題を解決する方法を探す

身近な問題を他人任せ(他人ごと)にせず、暮らしている私たち自身のこと(自分ごと)として知り、考え、個人・地域・行政が協力して解決方法を探す。

▶ 全体的な進め方

全5回の会議を経て、地域課題と改善提案をまとめた「富岡地区円卓会議からの提案書」を作ります。



▶ 改善提案シートのサンプル

次回以降記入する「改善提案シート」のサンプルです。

富岡地区円卓会議「自分ごとで考える“地域の居場所づくり”」  
改善提案シート

参加区分: 高校生・無作為・協議会

グループ:

名前(任意):

【記載イメージ】

課題	内容	備考
公園が利用されていない	議論を踏まえて感じた現状の課題を記載	
(だれが)	(何を)	
個人(私)	知らない公園が多いので把握する	
地域	草刈りなど、公園整備をサポートする 休憩用のベンチを提供する	
行政	(市)街の中にある遊び場の情報を、市全体から収集する (公民館)地域サロンを開き、地域に特化した情報を、地域住民へ提供する	課題とその解決に向けた方法を記載 ◆だれが? ◆何を?
その他	個人や地域、行政以外で、改善をお願いする主体があれば記載 (民間企業やNPO など)	

グループの総論ではなく、「話し合った結果、私が考えた内容」を書くもの。

これをまとめることで「提案書」を作成する

## ▶ 各回会議進行の基本形

各回は、基本的に次の3部構成で進行します。

---

### 1 話題提供・振り返り

テーマについての説明や前回会議の振り返り等を通じ、その日の論点になりそうな話題を提供する。

### 2 グループワーク

グループに分かれ、テーマに基づいて話し合う。

### 3 全体会

グループワークで話し合った内容を全体報告し、報告結果を整理して、全体で共有する。

## ▶ メンバーの役割

### ■ 委員(協議会、無作為抽出、高校生)

- テーマについて普段の生活から感じることなどを議論する。
- 議論した内容を「改善提案シート」にまとめる。

### ■ 応援隊(ファシリテーター;グループの進行役)

- グループワークにおいて、グループ内の進行役を担う。
- 適宜論点を整理して、グループ内での発言を促す。

### ■ テーマ担当課職員(アドバイザー)

- テーマに関する業務を担当している市職員が、富岡市、富岡地区の現状と、行政の取り組みについて説明し、必要に応じて質問への対応などを行う。

### ■ 公民館職員(コーディネーター)

- 会議全体の司会進行、全体会で論点を整理する。

## ▶ アイスブレイク・予行練習

### ■ 自己紹介

- 名前
- 住んでいる地域  
(〇〇区、△△の近く、…)
- いつも何をしているか  
(学生、会社員、趣味…)

### ■ 富岡の好きなところ

- 富岡のこういうところが好き！  
(みんなやさしい、道がきれい、…)

### ■ 自分の思う「居場所」

- 私の中で一番の「居場所」※**自宅以外**  
(学校、職場、畑、  
…など楽しい・安心・助かる場所)

全員合わせて20分  
終わったら…

### ■ 全体発表

各班ごとに持ち時間3分程度で、  
話し合った内容を発表します。

- ① 富岡のこういうところが好き！
- ② これが私たちの居場所だ！

※今回は練習なのでファシリテーターが発表しますが、  
次からはグループから発表者を選んでいただきます。

## ▶ アイスブレイク・予行練習の結果

### ▼富岡のこういうところが好き

- 歴史のあるまち
- 自然いっぱい。生き物いっぱい。
- 清潔。川もきれい。
- にぎやかで笑顔が多い(お祭り)
- 情がある
- いい人が多い、人柄がいい
- 安心して暮らせる(安心安全)
- 商店・ショップがこじんまり固まってて便利！ 郵便、銀行などもある
- 高い建物が無い。空が良く見えて星がきれい。

### ▼私の居場所

- ボランティアをしているとき
- 人と関わっているとき
- 学校の休み時間、友だちと話しているとき
- カフェで勉強しているとき
- 野菜、花、畑、土を触っているとき
- 川、水のまわり(清掃活動もしている)
- お茶をたてているとき
- 庭。土を触っているとき
- 会議のアフター
  - 終わった後の井戸端会議
  - 「このあと飲みに行く？」→「行く行く」みたいな空気
- 書を書いている場所
- 畑。家庭菜園に打ち込んでるとき

## ▶アイスブレイク・予行練習の結果 まとめ

### 私たちが考える「居場所」とは何か？ （「私の居場所」の発表結果より）

- 野菜、花、畑、土を触っているとき
- 川、水のまわり(清掃活動もしている)
- お茶をたてているとき
- 庭。土を触っているとき
- 書を書いている場所
- 畑。家庭菜園に打ち込んでいるとき
  
- カフェで勉強しているとき
  
- ボランティアをしているとき
- 人と関わっているとき
- 学校の休み時間、友だちと話しているとき
- 会議のアフター
  - 終わった後の井戸端会議
  - 「このあと飲みに行く？」→「行く行く」みたいな空気

ひとり

周りに人がいるけどひとり

なかま

### みんなの思う「私の居場所」まとめ

居場所  
(落ち着く、楽しい、安心するところ)  
とは…

- 自分の趣味・好きなことに集中できる場所
- 趣味趣向が合う仲間同士で過ごすところ
- 友人・知人と一緒にいられるところ
- 誰かの役に立てる場所
- 誰かに必要とされる場所

## ▶ 話題提供【行政の「居場所づくり」】

詳細は、別紙「富岡市 ふれあいの居場所について」参照

# 富岡市 ふれあいの居場所について

R5.8.26  
富岡市健康福祉部高齢介護課地域包括支援係

## ▶ 話題提供【行政の「居場所づくり」】まとめ

### 目的

「年齢や性別を問わず、誰でも気軽に集い、自由な時間を過ごせる場所」をつくる

### ターゲットと現状

富岡市は高齢化が進んでいる

- 現在、市の人口約46,000人のうち、約16,000人が高齢【高齢率34.7%】
- 単なる高齢化ではなく、75以上が非常に増加傾向にあり、下の世代はどんどん減少する傾向にある

### 高齢者の抱える問題

- 頼れる人がいない
- 心身機能の低下
- 外出手段がない
- 近所との交流が薄くなっている

地域力低下・要介護者や閉じこもりが増加

行政は「高齢者」を施策のターゲットに設定

### 期待していること

安心、安全、孤立や介護予防、生きがい、支え合い、社会貢献

- 市内各地域にあることで、支え合い、市民同士が支え合う地域づくりの拠点をつくる
- 地域力を向上し、要介護者の増加を食い止めたり、市民同士のコミュニケーションによって、生きがいを見つけて健康に、さらに支え合える環境をつくりたい
  - 色んな地域にあることで、歩いて行ける場所にある
  - 「困っている人を手助けする」環境づくり、困っている人を地域住民の手で見つけられるようになる

### 居場所の数と利用者

- 市内23か所
- 年間利用者総計17,805人

### 行政が行っている具体的なこと

- 設立のための補助金を交付
- 職員の派遣（体操等。内容による）

### この施策が抱える問題(円卓メンバーからの質疑より)

- 運営が立ちいかなくなる
  - 集会所の維持管理にお金がかかる。設立したら終わりではないから
  - 運営の補助金が欲しい(電気代、水道代、その他建物維持管理…など)
- 良いコンテンツや、良いリーダーがいないと続かない
- 新しいことが始められない
  - 市からいいやり方の例示や、すでに動いている事例の紹介があまりされていない

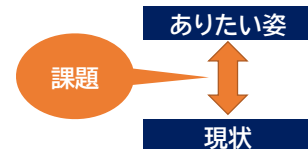
## ▶ グループワークに向けて

課題は何だろう？ 考えてみよう！

「どんな課題があるのか?」、「どうすれば解決できるのか?」  
意見を交わし、そこで得た自分の考えを“意見整理シート”に書きましょう。

### ① “課題”とは、「ありたい姿と現状のギャップ」のこと

- 「目指す姿」を考え、「現状」を知り、比べてみると、課題がはっきりしてきます



### ② 「居場所づくり」にはどんな課題がある？

- 「年齢、性別、立場…など関係なく、誰でも、自由に過ごせる場所」が「目指す“居場所”の姿」。
  - ➔ どんな人に「居場所」がないのか？ 身近な人から考えよう
    - ➔ その人は今どんなところにいる？  
(OOが危ない、OOが怖い、OOできていない、OOが足りていない)
    - ➔ その人にはどんな場所があるといい？

まずは自分の身の回り、自身の生活の中で感じることから考えましょう

## ▶ この場のルールとヒント

### 誰かの発言中は「聞く」姿勢

- 頭ごなしに否定してはいけません
- 発言をさえぎってはいけません  
でも、ファシリテーターだけはSTOPを  
かけられます！

### 年齢、肩書、立場にこだわらない・ 気にしない

- 重要なのは“誰が言ったか”ではなく“何を  
言ったか”
- 「偉い人がこう言った。だから私の考えは間違  
っているんだ」と思わない
- 「コイツ若造のくせに…」もNG

### かっこつけない

- 「すごいこと言ってやろう」と思わない
- 生活する中で感じることから生まれる  
考えこそ本質

### 「自分ごと」で考える

- 「私ではない誰かがやればいい」ではない
  - ◆ 私たち一人ひとりにできること  
→ 個人の役割
  - ◆ 一人では無理だけど、何人が集まればできそう  
なこと → 地域の役割
  - ◆ 広範囲に及ぶこと、一律的な取り組みや決まり  
事が必要なこと → 行政の役割
  - ◆ 住民や行政だけで対応するには向いていないこ  
と → その他(企業など)

## ▶ グループワーク結果発表 全グループ内容まとめ1

### ▼誰のために

- 高齢者
- ひとり暮らし高齢者
- 社会的でない人

### ▼その人はどんなところにいる

- ひとりで家にいる
- 話し相手がいない
- 病気で動けない
- 移動手段がない
  - 公園清掃などの近場のイベントな  
ら出てくる人もいる

### ▼どんな場所があるといい

- 食事(ができる場所)を提供
- 他愛ない話ができる場所
- ひとりにならない場所
- イベントや飲みに連れ出す
  - 昔は組におせっかい屋さんがいたの  
で、ぐいぐい行って誘えたり、状況を  
聞けた
  - ひとりでも図書館などにひとりで行け  
ている人には、もう居場所がある

- 子育て家庭
- 小さい子ども

- 遊び場がない
- 子連れで出かけるのが難しい  
(連れていくことが手間・移動手  
段がない)
- 相談できる相手がいない
- 時間的に余裕がない
  - お祭りになると出てくる家庭が多  
い

- 昔のように、お寺などで遊ぶ・学ぶ  
(寺子屋みたいなもの)
- あいあいプラザを活用
- 子ども会というコミュニティを活用
- BBQを開催する



## ▶ グループワーク結果発表 全グループ内容まとめ2

▼誰のために	▼どんなところにいる	▼どんな場所があるといい
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者、障がい者を支えている家族</li> <li>● 障がいまではいかないが、耳が遠い・耳が不自由な人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大変なのに、その人たちが大変なことを周りが知らない</li> <li>● 本人が、自らの状況を知られたいと思っていないのかも知れない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「障がい者を支える家族の会」のような、集まりやすい場所</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所の犬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● さみしそうな鳴き声をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大きなドッグラン <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人の交流も生まれるし、犬も幸せ</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふれあいの居場所を知らない人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内に「ふれあいの居場所」はすでにあるが、それを知らずに居場所のないまま暮らしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ふれあいの居場所」のことをもってたくさんの人に知ってもらって、居場所を必要とする人が、好きなとき・好きなところを選んで行ける</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 未婚の30～40代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家にいる</li> <li>● 本人は、今は不便じゃないし、困ってもいない。だが、いずれ困る</li> <li>● 少子高齢化が進んで、周りが困る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区で婚活イベントを開催したい</li> </ul>

## ▶ 次回に向けて

後日追記

### 第1回では、以下の成果が生まれた。

- ① 参加したみんなの思う「自分の居場所」【どういうところにいると落ち着くか】
- ② 行政の施策「ふれあいの居場所」と、それに対する委員からの問題意識(生の声)
- ③ みんなで考えた「居場所がない人」
- ④ 意見整理シート
- ⑤ アンケート

### 第2回は、成果をもとに論点を提示。

### それを使い、話し合って課題を整理する。

- ① 第1回の振り返り、第1回欠席者フォローアップからスタート
- ② 第1回の成果をまとめた論点をコーディネーターから提示
- ③ グループに分かれて話し合い
- ④ グループワーク結果を全体発表
- ⑤ 改善提案シート、アンケートの記入